

通訳案内士試験 中国語で学ぶ日本②環境

日本の環境保護の歴史

- 1 溝の魚や（食用の）カエル
- 2 森林の乱伐のせいで周辺ははげ山となった。
- 3 前所未有 かつてない 未曾有の
- 4 取り返しのつかないほどの
- 5 工業団地と自動車の排気ガスから出る光化学スモッグ、そして工場が出した水銀
- 6 マイナスの影響・負の側面
- 7 メーカー（工場）を訴えて
- 8 お役所仕事/たらいまわしにする/役人風を吹かせる。
- 9 専門家を配置して環境庁が成立してから、各地の環境は目を見張るほどの改善を得た。（目に見えて好転した。）

地球温暖化

- 10 日本はその会議において承認した。
- 11 温室効果ガス排出量
- 12 各国政府はリサイクル制度やごみの分別収集制度、サマータイムの実施、エコマークの付いた商品の推奨など、様々な環境保護政策を積極（主体）的に推し進めている。
- 13 そのなかでもゴミ収集車による分別回収制度は早急に解決すべきである（目前に迫った課題/喫緊の課題である。）
- 14 それは二酸化炭素の排出を削減するだけでなく、環境ホルモンの主な原因のひとつであるダイオキシンも減らせるのだ。
- 15 長い目で見ると一番の方法は省エネだ。
- 16 断熱性の高い壁材と二重ガラスを使う
- 17 大手家電メーカー
- 18 もしこれらの信号灯や街灯がみな発光ダイオード(LED)を使用したら、電力を四分の三も削減することができるのだ。
- 19 電球型蛍光灯は白熱灯並みの明るさだが、電力消費量は白熱灯のわずか四分の一である。
- 20 ガソリンリッターあたりの走行距離が三十五キロのハイブリッドカー
- 21 これらの車は、トップギア（四速）などの高速ギアや、バックギアに入れるとき、またはアクセルペダルを踏むときだけガソリンを使用する。
- 22 現行（既存）のディーゼル車やガソリン車

- 23 この点からみても、幸先の良さ（明るい未来・兆し）を表している。
24 燃料電池開発という国家レベルのプロジェクトを立ち上げ、
25 脱穎而出 頭角を現す
26 次世代自動車の花形（注目の的）
27 ガソリンなどいっそのこと使用しないで、
28 このようなクリーンエネルギーが現代生活の隅々にまで入って/浸透してくるだろう。

モンゴルの砂漠化と日本の協力

- 29 加えて放牧により土壌はからからに干からび、
30 井戸水の枯渇、干ばつ（日照り）、地割れ
31 非同小可 軽視できないほど深刻な
32 円借款
33 状況はますますひどくなる。
34 玩忽职守 職務怠慢
35 運用資金は「交際費」の名目で使いたい放題だ。（湯水のように使う）
36 さらにこの資金で個人的な借金の穴埋めをしたり運用資金をもらうために袖の下（賄賂）を渡したりする人さえいる。
37 汚職行為
38 視而不见 見てみぬふりをする
39 NGO
40 口若悬河 立て板に水とばかりに（べらべらしゃべる）
41 ライフワーク
42 本当の狙い（意図）は別のところにある（敵は本能寺にあり）
43 果てしない荒野をユートピアのような森林に変えるのは、全く夢のまた夢、骨折り損のくたびれもうけだ。
44 杯水车薪 焼け石に水
45 无济于事 何の足しにもならない
46 自分にできることは些細なことにすぎないけれど/微々たるものだが、私には自信（成算）がある
47 情人眼里出西施 あばたもえくぼ（★この場合のみ「住めば都」）
48 胸有成竹 成功の見込みがある
49 泰然自若として（落ち着き払って）いて、敬服（感服）させされた。

原発と日本人

- 50 尺有所短，寸有所長 長所と短所がある

- 51 周囲の町村からとてもねたまれる。
- 52 原子炉のウランからとりだした(精製した)プルトニウムは、諸刃の剣であるといえよう。
- 53 その損害は計り知れない
- 54 電力会社は都合のいいことばかりで、もっともらしいことを言っでは煙に巻く/ごまかす。
- 55 その危険性を過小評価する/甘く見つもる。
- 56 「時限爆弾」
- 57 口を閉ざす(つぐむ)
- 58 それどころか口々に自画自賛する
- 59 注目を集めるために大げさなことを言う
- 60 杞人忧天 取り越し苦労・心配しすぎ
- 61 本当に取るに足らぬことで大騒ぎしているだけならばよいのだが。
- 62 自力更生 自分のことは自分でする
- 63 このままいけば行き詰る/先がない。
- 64 行方不明
- 65 冷却システムが故障した/制御不能となった
- 66 放射能が漏れてしまった
- 67 IAEA (国際原子力機関)
- 68 大惊失色 大パニックに陥り声も出ない
- 69 お茶を濁し、なあなあで済ます
- 70 それまで提唱してきた「安全神話」ではつじつまを合わせられ(正当化でき)なくなった。
- 71 当事者としての電力会社は、その原発を廃炉にしたりその他の地区の原発の設置をやめたりした際の巨額の損失や賠償金を憂いた。
- 72 全国民が徹底的な追跡調査をするよう求めたが、会社側はこの案件に関して事の真相を明らかにしようとはしなかった。
- 73 当机立断 即決即断
- 74 一五一十 逐一ありのままに
- 75 ころころ変わる/二転三転する
- 76 翌年政権が倒れた(政権交代した)。
- 77 末端の現場にいた五十名の検査(調査)員たちは生死を度外視し(顧みず)、「決死隊」を組織した。
- 78 彼らは手に小型(ポケットサイズ)の計量機(線量計)をもち、セシウムの濃度を測りながら、原発内の点検修理を行った。
- 79 堅忍不拔 つらいこともじっと我慢する

- 80 永垂不朽 永遠に語り継がれる
- 81 慌てふためいて避難した被災者たち
- 82 火事場泥棒
- 83 家畜を飼う
- 84 先の見えぬ/見通しが立たぬ
- 85 かつとなった（頭に来た）被災者たちは態度がなっていないだの誠意がないだのと社長の非をいちいちあげて責めた。
- 86 小さなミスが大惨事をもたらしかねない。
- 87 人災の要素もあるのだ。
- 88 世論調査
- 89 国際世論は喧々諤々の議論を引き起こし、反原発運動を改めて呼び起こした。
- 90 放射性廃棄物（使用済み核燃料）
- 91 密閉保存するしかないのだ。

再生可能なエネルギー

- 92 再生可能なエネルギーが続々とお目見えした。
- 93 太陽光がシリコン半導体に当たると発電する（電気が起こる）。
- 94 コストダウンの問題が課題となっている。
- 95 もしこの勢いが保てるなら、原子力発電所の電力と遜色なくなるだろう。
- 96 バイオテクノロジーの発展にともない、科学者はヘドロなどの汚染物質を利用してバイオ燃料を開発した。
- 97 環境保護レポートをまとめ、

神道と環境

- 98 この世のものすべてを覆う/包み込む自然に真心を持って接する。
- 99 絶対普遍の真理/至極当然のこと
- 100 命の源である青い海も、時には波が荒れ狂ったりもする。
- 101 媽祖廟のような神社をたてて、
- 102 科学分野ばかり重視しすぎた。
- 103 人々は天も恐れぬ態度でやりたい放題になった。
- 104 おごり高ぶる/傲慢な/身の程知らず
- 105 自然は人間に痛みを訴えた。しかしこの自然の悲痛な叫び声も人の心の奥には届かなかった。
- 106 自分で自分の首を絞める/自業自得だ
- 107 すぐには収まらぬ環境破壊を前にして、人類はなすすべがない。
- 108 自然と仲良く共生/共存する

- 10 将错就错 間違いを知りつつ改めない
- 110 良心に背き、同じ過ちを犯す/ニの舞を舞う
- 111 現代の便利な生活を捨てられ/抜け出せない。
- 112 損得勘定をする/はかりにかける
- 113 得不偿失 結局マイナスになる
- 114 适可而止 ほどほどでやめておく
- 115 昔のように人類の自然に対する崇拝の念が薄れているのではなかろうか。